

第5学年 国語科 授業構想シート

授業者 湯浅 明菜

本実践の主張点	読みを交流し、作品について自分なりの思いや考えを1冊の冊子に綴ることで、主体的に作品を読み、自分の思いや考えを明確にすることができるであろう。
---------	---

1. 単元名 わたしの「杉みき子論」読書会で交流しよう 「わらぐつの中の神様」

2. 5年A組の子ども

<p>本学級には、読書が好きで、活字の本を進んで読んでいる子が複数おり、互いに本を紹介し合っている子どもたちもいる。1学期には、自分の好きな学校図書について紹介し合う活動や古典の暗唱大会で表現することに、進んで取り組んだ。図書を紹介し合う活動では、こちらから促す前にグループで集まって互いのスピーチを聞き合い、改善点をアドバイスし合うなど、積極的に取り組んだ。</p> <p>自分の意見をクラス全体の場で発言しようとしないうちもいるが、その子どもたちも、グループでは話していたり、ノートに考えを書いたりしている。そこで、「アシスト発言」をしようとして話している。ペアやグループ活動で把握した友だちの意見について、いいと思ったり、話し合いの課題に沿っていると思ったりしたことを、本人でなくても全体の場で発言するというものである。</p> <p>書くことに関しては、「宝物ノート」と呼んでいる毎日日記を家庭学習として書いている。1学期の始めは「何を書けばいいかわからない」と言っていた子どもたちも、取り組み続けることで「あんなに時間がかかっていたのに、今ではもうすらすら書けるようになった」と自らの変化を実感している。しかし、そのような子どもたちであっても、文章を読んだ感想文を書くのは苦手としている。日々の継続的な学習指導と共に、本実践で、作品について自分の考えを書く力を身に付けさせたい。</p>
--

3. 何ができるようになるか

探究力	省察性
<ul style="list-style-type: none"> 作品の面白さについて考え、書いたり話したりしようとする。(読書への意欲、対話力) 作者による仕掛けが物語に生み出す効果を考えようとする。(読解力) 	<ul style="list-style-type: none"> 人と話すことで自分の考えが広がる、深まることを実感する。(対話力を支える省察性) 作品の表現や・テーマについて、自身の読みを捉え直して書く。(読解力を支える省察性)

4. 何を学ぶのか

①単元の目標

物語について自分の考えを伝えたり、読み取ったことを書いたりすることを通し、おみつさんと大工さんの交流や心情、人物像について捉えようとする中で優れた叙述に気づき、物語について考えをまとめることができる。
--

②教材の価値

素朴で単純であるが、本当に大切なものを捉えたおみつさんや大工さんの真摯な生き方、考え方が、表面的なものを重視するマサエの価値観を揺さぶり、心に変化をもたらす。マサエと同じような価値観をもつ子どもたちの心をも揺さぶることであろう。

おみつさんと大工さんの恋愛の始まりの様子は、5年生の子どもたちにとって関心の高いところで、二人の恋愛について話し合うことに関心が高まるであろう。その過程で、二人の行動、会話文をもとに、心情を想像していくことができる。

現在一過去一現在の場面によって描くという額縁構造により、祖母の昔の話を前後から包み込む構造となっている。また、全体的に優しく、温かな雰囲気醸し出されている。擬声語、擬態語、比喩

が随所にちりばめられ、登場人物の心情や情景を的確に、そして豊かに描写されている。

以上の題材、構造としての教材の魅力を子どもたちがつかむことができるようにし、この作品に示されている考え方、生き方を感じ取ることができる学習にしたい。

③学年間・教科間のつながり

- 人と一緒に本を読む楽しさを味わうことのできる活動を、年間を通して行う。
- 1 学期：「夏休み直前！『図書室にある本』をおすすめしよう～ブックトーク～」
 - 2 学期：「次の5年生に『大造じいさんとガン』の魅力を伝えよう」
「わたしの『杉みき子論』読書会（※）で交流しよう 『わらぐつの中の神様』」
 - 3 学期：『注文の多い料理店』（「新しい国語 五」東京書籍）

（※）「読書会」とは、集団で読書または読書に関するコミュニケーションを行うこと。各自が本を読み、読んだ本について感想を述べ合うものである。読書会は目的や参加者数、文化背景などに基づいて様々な様式・分類があるが、本実践においては、「わらぐつの中の神様」を主教材として学習しながら並行読書をし、第3次で杉みき子作品についての互いの読みの交流を行う。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

- くらべる
 つなげる
 まとめる
 広げる
 予想する
 見方を変える

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全9時間） 本時 7/9 第1次 杉みき子ワールドに出会う。 ① 「わらぐつの中の神様」と出会う。 ② 杉みき子作品と出会う。単元の見通しをもつ。 ③ 「わらぐつの中の神様」の魅力を探る。 第2次「わらぐつの中の神様」を読む。 ④感想から、課題を設定する ⑤わらぐつについて（各登場人物の視点から） ⑥おみつさんと大工さんの話について。 ⑦マサエの変容について。 ⑧わらぐつの中の神様について。 第3次 「杉みき子論」を読書会で交流する。 ⑨⑩グループで読書会をする。	↓ 並 行 読 書 ↓	単元における授業づくりのしかけ 探究力を育む ・作品に対する思いや考えを伝え、自他の読みを比べながら作品について考えさせる。 ・読書会を設定し、作品について伝え合う場を意識させる。 ・人物像や人物相互の関係を捉えたり、物語全体に及ぼしている表現の効果について考えたりするよう促す。 省察性を育む ・互いの読みに対してコメントし合うことで、次の意欲へとつなげられるようにする。 ・作品について自分の思いや考えを1冊の冊子にまとめるようにする。
--	----------------------------	---

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・物語に用いられている表現の工夫に気づいている。(1)オ ・話し言葉と書き言葉との違いを理解する。(1)イ	・登場人物の相互関係や心情、人物像について、描写を基に捉え、表現の効果について考えている。(C読エ) ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる。(C読力)	・登場人物の相互関係や心情、人物像について、描写を基に捉えようとし、考えたことについて仲間と伝え合っている。